



みのる法律事務所  
第 2 9 9 号  
平成 2 7 年 3 月

みのる法律事務所  
弁護士 千田 實  
〒 021-0853



岩手県一関市字相去 57 番地 5

TEL : 0191-23-8960

FAX : 0191-23-8950



みのる法律事務所 <http://www.minoru-law.com/> [✉ minoru@minoru-law.com](mailto:minoru@minoru-law.com)



## まだ若い!

「千田さんは、若いから治ります」と言う担当医師の言葉に、耳を疑いました。あまりにも意外な話で、到底信じられませんでした。満 72 歳を超え、孫から「ジッチ」と呼ばれ、妻や子らにも「ジッチ」と呼ばれています。すっかりジジイになったつもりでいました。

そんな思いがすっかり身に染み込んでいきましたので、「自分は年寄りだ」という思いで、『年寄りのための童話 — 長生きを楽しむコツ』シリーズを書き出していました。目標は「好々爺こうこうや」となっていました。残す人生は、誰に対しても「優しく、人のいいおじいさん」として接し、「死ぬ時が来たら死ねばよい」と考えていました。

そんな時でしたので、「千田さんは若い」と医師から真顔まがおで言われ、信じられなかったのです。それから 2 日後、同じ医師から「手術結果は良好でした。千田さんは若いから骨密度が高く、ボルトが骨にしっかり固定され、きれいに収おさまりました」と言って、手術後のレントゲン写真を見せてもらいました。

その数日前に、歯が痛んだので、たまたま事務所に相談に来てくれていた 30 年来の友人である歯科医師に、事務所にある手鏡や線引きなどを使って診てもらったところ、「先生は、顔も立派だが歯も立派だ！」などとからかわれた上、「先生の歯は素晴らしい。表彰モノだ。若々しい！」とってもらいました。そのことが思い出され、「私の骨や歯は、まだ若いのかもかもしれない♪」などという気持ちが湧わいてきました。根が単純さだまですから、他人の言葉を信用せず、疑うってみることを仕事しごととしている猜疑心さいぎしんの塊かたまりみたいな弁護士業を 45 年もしてきたのに、コロリと他人の言葉を信じてしまう性格は変わっていないみたいです。何だか嬉しくなりました。

新・憲法の心、黄色い本、いなべんの本は、出版社・株式会社エムジェエムの他、下記書店でも好評発売中です。

宮脇書店気仙沼本郷店 〒988-0042 気仙沼市本郷 7-8 TEL: 0226-21-4800  
amazon.co.jp® <http://www.amazon.co.jp/> ~ 送料無料 ~



手術して1週間ほどしてから、病院内でのリハビリが始まりました。大きな部屋で、大勢の人が、平行棒や歩行器や杖を使って歩行訓練をしていました。80歳を超えていると思える人が目立ちました。90歳くらいの方も何人かいました。むき出しになった脛すねには、筋肉はなく、まるで棒のようでした。それでも皆、懸命にリハビリをしています。その方達とご一緒させてもらっていたところ、「確かに、私はまだ若い！」という気持ちが湧いてきました。「スティル・ヤング (Still Young)」(「まだ若い」) などという英語が口から出てきました。

この話は、昨年(平成26年)のクリスマスイブ(12月24日)に、東京駅でキャリーバッグに足をすくわれて転倒し、右大腿骨股関節骨折みぎだいたいこつこかんせつを受傷し、12月26日、大久保病院(東京都新宿区歌舞伎町)で手術を受け、平成27(2015)年1月10日に退院するまでのことです。最初は、1月一杯の入院と言われていましたが、担当医師は「術後の経過もよく、千田さんは若いので、最短の2週間の入院で退院を認めます」と言ってくれました。

それまでは、「自分は年寄りで、もう体を鍛えることなど必要ない」という考えに凝り固まこっていました。「運動をしよう」などという思いはありませんでした。ところが、このキャリーバッグ事故で、手術を受けてリハビリをしているうちに、「私はまだ若い。リハビリをして歩けるようになったら、体を鍛え直して、何らかのスポーツに挑戦してみよう！」という気になってきました。「災いを転じて福となす」です。キャリーバッグ事故という不幸にであったお陰で、気持ちが若返り、体を鍛えようという気持ちが湧ききっかけとなったのです。妻や倅が年末に開業する予定のサービス付き住宅「グランルーム」の会議室に卓球台を設置してもらい、卓球をしてみたいとか、ミニミニプールを造ってほしいなどという思いが、頭に浮かんでいます。

キャリーバッグ事故から3か月が経過しましたが、まだ独力では完全には歩けません。ですが、私の今年のモットーは「焦らず、諦めず」です。早く結果を出そうとしないで、しかもやろうということは途中で断念することなく、必ずやり遂げるつもりです。

キャリーバッグで私の足をすくった彼に対しては、恨む気持ちはありません。むしろ、「お陰で若さをもらった！」という気持ちが強く、感謝の気持ちさえ湧いています。この事故がなければ、もうすっかり「ジッチ」になりきって、「運動をしてみよう」などという考えは湧いてこなかったはずです。この事故





のお陰で、もう一度「動いてみよう」という気持ちが湧いてきました。素直に「有り難い」と思うのです。

「きれい事を並べている」と思う方もいるでしょうが、これは考え方の問題ですから、いろいろあっていいのです。「どう考えたら楽しい人生になるか」という秤で計る私の考え方では、恨むより感謝した方がいいのです。その方が自分が得をするのです。他人のためより、自分のためのなのです。「情けは人のためならず」と言うのと同じです。

一般社団法人倫理研究所の創設者・丸山敏雄（1892-1951）著『万人幸福の葉』（発行所 新世書房、発行日 昭和24年8月）の序には、「苦しみを喜んで迎え、病気になれば『おめでとう』という時代がきた。それは、苦難は幸福の門であり、万人が必ず幸福になれる絶対倫理が現れたからである。それは、宗教でも、主義でも、学説でもない。実行によって直ちに正しさが証明できる生活の法則である」と記されています。その通りだと、心の底から同感します。倫理法人会では、このことを「**苦難福門**」と呼んでいます。私の好きな言葉の一つです。

今回のキャリーバッグ事故のお陰で、私は「若さ」をもらいました。「もう運動など、関係ない年になった」と思い込んでいたものが、「再び運動に挑戦しよう！」というやる気をもらいました。老いも若いも相対的なものであり、孫や子供に比べれば「老いた」と言えますが、あの病院のリハビリ室でお目にかかった先輩達に比べれば、「まだまだ若い！」ということに気づかせていただきました。老いも若いも、「見方次第」、「考え方次第」です。そして、「心次第」ということになります。

当たり前のことですが、誰だって「今日より若い日はない」のです。生まれたばかりの赤ん坊でもそうなのです。70歳を超えても同じことです。「今日は明日に比べれば若い」のです。これからは、「今の自分が一番若い！」という意識で、毎日を暮らすことにしました。ですから、やれるうちは運動もすることにしました。

こんなことは、生活習慣病が進行した60歳代になってからは全く考えていませんでしたが、キャリーバッグ事故のお陰でそのような気持ちになりました。まさに「**苦難福門**」です。





## 《 発刊のご案内 》

### 年寄りのための童話 第4巻 『長生きを楽しむコツ その参 第5・6話』

『長生きを楽しむコツ』シリーズは、順調に発刊できています。これも、皆様の応援に支えられてできていることです。本当にありがとうございます。

思いの外、たくさんの方にお読みいただき、身に余るお言葉を頂戴し、感激しております。私の体験を書いているのですが、お読み下さった皆様も同じような思いをされているようで、共感していただいているようです。そのようなお声が寄せられるたびに嬉しくなります。

今回は第4巻で、第5話「制約を楽しむ」と第6話「解放日を楽しむ」の2話となっております。

何かと制約だらけの人生ですが、心の持ち方と工夫で乗り切っていきたいものです。「つまみ食い」の体験から、「人生は、制約があるからこそ楽しい」という心の持ち方と、「解放弁当」の昇天する旨さが未だに忘れられずに、「たまには、制約から解放される工夫をして楽しむ」という居直りと手抜きによって、「人生を楽しむコツ」を身に付けようというものです。どちらも大したことは言っていません。ただ、体験を通してそのような印象が強く残っていますので、紹介するものです。

何事も、最後は「心の持ち方一つ」です。「制約さえ逆手にとって楽しむ」、「たまには、制約そのものを自らの手でぶち壊し、楽しむ」ことをお勧めする次第です。

今回も、<sup>ずうずう</sup>凶々しくも「**購買申込書**」を同封しますので、共感するところがありましたら身の回りの方々にお勧めいただくなど、ご活用いただければこれほど嬉しいことはありません。何卒よろしくお願い申し上げます。

末尾になりましたが、いつも複数冊ご購入いただき、自分だけではなく身の回りの方々に配布して下さっている方が少なくありません。お陰で思いもかけない方から、「あの本は面白い」などと声を掛けられ、「なぜこの方が知っているのだろうか？」と驚くことが少なくありません。<sup>ぼうがい</sup>望外の幸せです。

本当にありがとうございます。心から御礼を申し上げる次第です。

